

第3章 ワークショップの実例

ワークショップ方式の研修の具体的な実施例として、平成11年度の北海道大学教育ワークショップの経験とその成果について紹介する。

3.1 ワークショップの構成例

資料3.1 スケジュール

資料3.2 北海道大学教育ワークショップ (FD) マニュアル・進行

3.2 プロダクトの例

3.3 アンケートの例

資料3.3 平成11年度のFDにおけるプレ・ポストテスト用紙

資料3.4 平成11年度のFDにおけるプレ・ポストテスト結果

資料3.5 平成11年度のFDにおける「ワークショップ総合評価」アンケート用紙

資料3.6 ワークショップ総合評価 質問1の回答のまとめ

資料3.7 ワークショップ総合評価 質問3の回答のまとめ

資料3.8 ワークショップ総合評価 質問6,7の回答のまとめ

3.1 ワークショップの構成例

北海道大学では、1995年以来、高等教育機能総合センター高等教育開発研究部が中心となって、様々な講演型FDを行ってきた。ワークショップ型FDは全学レベルのものとしては1998年に初めて実施された。まず、全学的広報、参加者への案内に用いた趣旨等を紹介する。

第2回北海道大学教育ワークショップ(FD) 教育機関としての北海道大学の戦略

主催：高等教育機能開発総合センター高等教育開発研究部
 期日：平成11年11月26日(金)～27日(土)(1泊2日)
 場所：定山溪 青らん荘
 参加者：各部署の教育企画に中心的に関わっている教官を含む2～4名、その他
 世話役：プロデューサー 丹保 憲仁
 ディレクター 阿部 和厚
 タスクフォース 山口 佳三
 小笠原正明
 西森 敏之
 細川 敏幸
 大滝 純司
 事務 平清水 潔
 土田 恭照

(1) 趣旨

ファカルティ・デベロップメント(Faculty Development, FD)は、各教員の大学における機能、すなわち教育、研究、社会貢献、管理運営などに対応できる資質向上の組織的取り組みをさします。教員の教育資質向上は、大学・部署の発展に結びつきます。しかし、一般には各教員の教育資質を向上するための組織的な研修を示し、機関としての教育改善を目的として実施されます。FDは今日の大学改革の重要な活動として、その実施は各機関の義務に位置づけられてきています。

北海道大学では、第1回北海道大学教育ワークショップ(FD)を平成11年11月27日(金)～28日(土)真駒内ハイツ北海道青少年会館において、「21世

紀における北海道大学の教育像をめざして」と題して行いました。各学部から37名、他機関から2名の参加者、7名のタスクフォースで活発な討論が行われました。とくに参加者の一致した意見では、異なる部署の教員が教育を中心に語り合ったことには大きな意義があったということです。また、いくつかの部署が、シラバス改訂を行ったことも目に見える成果でした。

国立大学の独立行政法人化が緊急を要する検討課題となっている今日、教育機関としての大学のあり方が再確認される必要があります。AO入試でも求められるように、大学の個性、学部・学科の個性、教育観、求める学生像などを明確に主張できなければなりません。このFDでは21世紀の北海道大学の発展のために、教育機関としての戦略を展望しつつ、機関をささえる教官の教育資質のあり方を理解し、教育の基本を身につけます。

今回は、各学部から33名、他大学から5名、韓国から1名の参加です。北海道大学からの参加者は、北海道大学の将来、個性を明確にして、北海道大学を発展させるにはどうしたらよいか、現実的、具体的にお考えいただきます。また、北海道大学外からの参加者には、北海道大学の外部評価者のようなおつもりで具体性の構築に参加していただきますようお願いいたします。

(2) 作業目標

研修教官は、以下の大学の教育改善に資する具体的方略を身につけます。

- 1) 大学という教育機関における教育の在り方の基本を理解します。
- 2) カリキュラム設計の基本を身につけます。
- 3) シラバス表現の基本を身につけます。
- 4) 授業設計の基本を身につけます。

- 5) 目標設定と成績評価基準について理解します。
- 6) 学生中心授業を体得します。

研修形態

- 1) 体験型研修とします(講演会型にはしない)。
- 2) ミニレクチャー, グループ作業, 全体討論の繰り返しで構成します。
(ひとり, 30分以上は講義をしない)
- 3) 異なる資質のグループ員が, 建設的に意見交換することにより, 生産的な成果を得ます。
- 4) 研修自体が, グループ学習形式であり, 学生参加型授業を体験することになります。

グループ作業のテーマ

このワークショップでは, 5グループに分かれ, 以下のなかで科目設計をします。

各参加者は, グループ作業, 発表・討論により教育の基本要素, 授業設計, 授業法, 評価法などを学びます。

- 1) 複数分野教官担当による教養科目
- 2) 小グループ方式, 学生参加型授業
- 3) 専門教育における分野共通授業(学士課程)
- 4) 専門教育における分野共通授業(大学院教育)
- 5) ネットワークにおけるマルチメディア, メディア教材利用授業

(3) タイムスケジュール

以下は, 事前準備を中心とするスケジュールである。

9月第1週

総長日程によりFD日程決定
会場決定

10月第2週

タスクフォース打合せ 作業のサブテーマの決定と資料作成方針
参加者募集

11月第1週

参加者の確認および追加
資料内容確認の会
参加者を調べ, グループ作成
青らん荘 会場打合せ

11月第2週

参加者へ通知 1 挨拶とアンケート
予定の連絡
趣旨, 内容, 普段着で参加
するようになどの案内

11月10日(水)

タスクフォース打合せ 役割の確認

11月第3週

アンケート回収, 集計
資料印刷
手順を事務へ
懇談会手配 飲み物 おつまみ 計画
参加者へ通知 2 日程の連絡

11月第4週

24日(水)
資料印刷上がり
タスクフォース用ファイル上がり
タスクフォース最終打合せ(午後いっぱい)

26日(金) ~ 27日(土)

当日

12月

記録整理
報告書作成

資料3.1 スケジュール

以下はワークショップ当日のスケジュールの概要である。

10月26日(金)

8:30	北大学術交流会館前集合
8:45	バス 出発 研修開始:オリエンテーション
10:00	定山溪 青らん荘 到着 玄関前 記念写真
10:10	総長イントロダクション
10:25	オリエンテーション・アイスブレイキング
10:45	教育の要素 ミニレクチャー
11:00	グループ作業 I 「北大へのニーズと課題,原因」まとめ・発表・討論
12:30	昼食 60分
13:30	ミニレク「カリキュラムの構成要素」「学習目標」
14:00	グループ作業 II 「科目名:目標の設定」まとめ・発表・討論
16:10	ミニレク「方略」 「学生参加型授業の例:ビデオ」
17:00	休憩 ふる (1時間半の休憩=他のホテルの大浴場をつかってよい)
18:30	夕食
19:30	グループ作業 III 「目標の手直しと方略」 授業設計
20:30	懇談会 ディベート体験

11月27日(土)

7:30	朝食
8:30	ミニレク「評価」
9:00	グループ作業 IV 「授業設計てなおしと評価」 まとめ・発表・討論
11:30	グループ作業 V 「北海道大学をどのような大学にするか」
12:15	昼食
13:00	発表・討論
14:00	各自個人的感想・意見
15:00	バス出発
16:30	北大事務局前到着

資料3.2 北海道大学教育ワークショップ (FD) マニュアル・進行

ワークショップは分刻みの進行をするために、詳細なマニュアルを用意する。これらは参加者にも配布する。

11月第2週	参加者への挨拶とプレアンケート タスクフォース (TF) 打合せ 資料作成
11月第3週	参加者への参加案内, 参加者名簿, 日程 集合時間, 服装, もちこみ・酒など筆記用具 グループ編成, バス座席表 資料印刷 事務用品手配: ファイル, クリップボード, 名札, 手書き OHP 用紙, マーカー, レポート用紙 (2 孔) 総長へ予定連絡
11月第4週 (当週)	ファイル上がり, 総長へファイル TF 最終打合せ

第1日 10月26日 (金)

- 8:30 北大学術交流開館前集合
名札 (名札で出席確認)
資料ファイル・クリップボード・座席表 (グループごとに席に着く)
(司会 細川)
- 8:45 バス 出発
ただちに 研修開始: オリエンテーション・到着してからのことも (阿部)
グループ編成発表 - 参加者自己紹介 (一人: 1 から 2 分程度)
プレテスト
- 10:00 定山溪 青らん荘 到着 (事務先発が 15 分前到着 研修室設営)
玄関前 記念写真
-

早く準備ができたなら直ちに始める

- | | | | | |
|-------|-----------------------------|-----|-----------|---------|
| 10:10 | 総長イントロ | 10分 | (研修室) | (司会 阿部) |
| 10:25 | オリエンテーション | 5分 | 趣旨説明 | (阿部) |
| | FDをなぜ行うのか。目的は何か。 | | | |
| | ワークショップとは | 3分 | プロダクトをだす。 | (大滝) |
| | アイスブレイキング | | 新聞紙の使い方 | |
| | グループ名つけ | | | |
| 10:45 | ミニレク「教育の要素」 | 5分 | | (阿部) |
| | 図で説明 これからの作業との関係 | | | |
| | 「グループ作業について」 | 5分 | | (小笠原) |
| | group dynamics, interaction | | | |
| | 役割分担 とくに リーダー の仕切り | | | |
| | 時間はいつも足りない: 集中して短時間でプロダクト | | | |
| | 「KJ法」 | 5分 | | (西森) |
-

11:00 グループ作業Ⅰ「北大へのニーズと課題，原因」説明 5分（細川）
35分

- | | |
|------------------------------|-----|
| 1) 北大が求める教育像：北大の理念・目標（2グループ） | A C |
| 北大はどのような大学であらなければならないか。 | |
| 2) 社会は大学に何を求めているか，その要因 | B |
| 3) 学生のニーズ：生の問題と原因 | D |
| 4) 大学院大学としてのニーズ：総合大学としての大学院 | E |

現実的，具体的に解析する。

- ・北大には何が求められているか？
- ・そこには，どのような課題（問題）があるか？
- ・その問題を生じている理由・原因は何か？

それぞれの確なニーズを優先順に3項目ほどあげて解析します。

問題の解決案には立ち入りません。

ここでは，時間が短いと思いますが，役割分担，成果のまとめ，発表資料（OHP）作成，提出用記録（討論内容もいれる）をお願いします。

KJ法を用いること：タスクフォースは各グループへつき，的確に進行をガイド
時間配分と進行をそのつど指示
各グループのうち，他大学の人は2) - 4)のグループへ
その分の人数調整

各グループは，記録（成果のまとめ），OHP（発表用）

11:40 発表6分・討論4分：計50分 （研修室） （司会 細川）

グループ作業Ⅰのプロダクトのまとめ （細川）

12:30 昼食 60分（午前の部が食い込んだらここでとりかえす）（食堂）

13:30 ミニレク

「カリキュラムの構成要素とシラバス」5分（研修室） （阿部）

機関の理念・目標，何のために，学生が中心，教員の役割

「学習目標」 20分 （小笠原）

目標を定めることの意義

目標のもつべき性格

分類と表現

一般目標

行動目標

14:00 グループ作業Ⅱ「科目名：目標の設定」

グループ作業説明 5分 (コアカリキュラム表をみせる) (小笠原)

科目名, 目標の設定 55分 (グループ学習室: 宿泊の和室5室)

以下は, 授業設計です。

最初は, 以下の授業において, 適当な科目をつくり, その科目名(名は体を表す科目名)とその学習目標を明らかにします。

- | | |
|---|---|
| 1) 複数分野教官担当による教養科目 | A |
| 2) 小グループ方式, 学生参加型授業 | B |
| 3) 専門教育における分野共通授業(学士課程) たとえば心理, 倫理関連 | C |
| 4) 専門教育における分野共通授業(大学院)
12年度から実施 たとえば環境関連 | D |
| 5) ネットワークにおけるマルチメディア, メディア教材利用授業 | E |

これらは現在, 検討中のコアカリキュラムで, 現実に実施することを想定して授業設計します。

15:00 休憩 コーヒー 15分

15:15 発表: 10分 計50分 (研修室) (司会: 山口)
グループ作業II プロダクトまとめ (小笠原)

(まわりのホテルの大浴場情報を調べておく)

16:10 ミニレク 方略 20分 (西森)

教官も学習資源

「学生参加型授業の例: ビデオ」: 30分, 討論: 10分 (阿部)

17:00 休憩 ふろ

(1時間半の休憩: 他のホテルの大浴場をつかってもよい)

18:30 夕食 (食堂)

19:30 グループ作業 III 「目標のてなおしと方略」 説明 5分 (西森)
55分 (グループ学習室)

学習方略

授業内容(順次性を踏まえて設計)

授業の方法(講義, ビデオ供覧, 見学, 調査, 討論

および人的資源, 担当教員など)

ここでは, 作業II であげた科目の授業内容を設計します。原則として1週に1回90分授業, 15回を実施するとして, 15回の内容(方略)を設計します。

授業の順序と各回の内容, 授業法, 媒体, 資源などを現実的に示します。

方略を設計するにあたり，目標の修正が生じるかもしれません。この場合は目標を手直します。

20:30	懇談会	オードブル，ビール（サケなどは持ち込み）	(大広間)
			(阿部：挨拶乾杯)
	ディベート体験	「チャパツ（金髪）は是か否か」	30分 (大滝)
	簡易型ディベート	立論	Y 3分 N 3分 休憩 1分
		反対尋問	N 5 Y 5 1
		最終弁論	N 3 Y 3
	目標をめぐる問題	意見交換	(時間があれば 小笠原)
22:30	終了		
23:00	うちどめ	就寝	

第2日 11月27日(土)

7:30-8:30	朝食	60分	
			荷物は研修室へ
8:30	ミニレク「評価」	20分	(研修室) (阿部)
		質疑 5分	
9:00	グループ作業 IV 「授業設計てなおしと評価」	説明 5分	(西森)
		55分 (グループ学習室)	
	成績評価		
	評価項目		
	評価方法		
	評価比重 (%)		
	作業 III で，設計した授業内容をてなおしし，評価の項を加える。		
10:00	休憩	15分	(研修室)
10:15	発表	各 10分発表 5分討論	75分 (司会 大滝)
		グループ作業 II てなおしプロダクトまとめ	(小笠原)
		グループ作業 III・IV プロダクトまとめ	(西森)

11:30 グループ作業 V 「北海道大学をどのような大学にするか」

説明 5分 (小笠原)
 作業 40分 (大広間)

教育活動の実践体験およびここで研修したことに基づき、北海道大学の教育機能を十分に発揮するには、どのような改善計画、企画を行うか。具体的に提案する。北大の理念・目標を実現するための具体的行動目標、北大の個性と売りをどのようにするか。すべてのグループが同じテーマですが、個性あふれる現実的企画を期待します。

以下を参考にまとめてください。北大の売りをつくる企画が求められています。

- 1) 問題点 (現状, 背景, 改革の必要性など)
- 2) 理念・目標
- 3) 方略 (考えられるいくつかの方法, 実現の可能性)
- 4) 実行計画 (主な活動, 資源, 時期, 担当, 責任, 具体的企画書など)
- 5) 評価 (測定方法, 学生, 教員)

12:15 昼食 記録提出

13:00 全体討論 「北海道大学をどのような大学にするか」
 (研修室) 60分 (司会 山口)
 グループ作業 V プロダクトまとめ (細川)

14:00 各自個人的感想意見 (研修室) (司会 細川)

15:00 バス

15:10 バス
 のこりの人の感想意見 ポストテスト (司会 細川)
 ポストアンケート

16:30 北大事務局前到着
 おつかれさまでした。

プレアンケート
 プレテスト
 ポストテスト
 ポストアンケート まとめ (大滝)

文房具発注

資料等プリント (プリントはワークショップでの進行に合わせて配布できるようにしておく)
 事前にファイルをとじるため2穴をあけておく

参加数 タスクフォース, 総長, 副学長, 事務 + 予備 2 冊 (合計 51 冊)

コクヨ	数	予想単価
・参加者名札 (大きめのもの 横 90mm 位)	× 51	
・リングファイル (A4: 2 穴) フ-F420G	× 51	@ 400 円
・クリップボード (A4 紙) ヨハ-28N A4-E	× 51	@ 300 円
・OHP 用紙 手書き	100 枚入れ 2 箱	
・レポート用ノート A4 ノート 2 孔		
STAEDTLER		
・OHP マーカー LUMICOLOR 314 WP4 4 色	11 セット	@ 500 円